

わわわのひろば



2016年7月 第5号 社会福祉法人 宮城厚生福祉会

平成28年4月に、多賀城市伝上山に開所しました。「地域密着型特別養護老人ホーム 風の音サテライト史」です。史(ふみ)という施設の名前は、多賀城市は歴史のまちであることから、そこから一文字を使わせていただきました。入居定員は29名です。地域密着型ということで、入居対象となる方が多賀城市に在住している方で、要介護3以上の方が対象となっています。介護職の不足もあり、今回は19床での開所となっておりますが、介護職員が集まり次第、残りの10床を開所していきたいと考えています。地域密着型の施設ということで、ご家族を始め沢山の方々に支えられています。地域の皆様に愛される施設作りをしていきたいと思えます。施設の交流ホールは散歩途中のお茶のみの場として、会議室は地域の方々へ開放していきますので、気軽にお立ち寄りください。



多賀城市に 風の音 ^{ふみ}サテライト史 ができました





古川くりの木 保育園

ふるかわくりのきほいくえん

〒989-6105 大崎市古川福沼2丁目18-30
TEL 0229-91-5075

同法人の5つ目の保育園として2014年大崎市に開園し、今年で3年目を迎えました。定員は7名ですが、待機児童の多い地域であることから今年度は新しい園児を迎え、91名の子どもたちで新年度をスタートしました。

園舎は無垢のフローリングになっており、木の香りが園全体に広がり子どもたちが素足になってのびのびと遊び、生活できる造りになっています。

保育園から歩いて5分のところには、歴史ある公園があります。春はお花見散歩や草花摘み、虫とり、秋には大木から落ちる葉っぱで落ち葉のかけ合いっこなどができます。そして、園の目の前には江合川が流れており、土手の上り下りや冬は白鳥などが近くで見られるなど四季折々の自然を五感で楽しんでいきます。そんな自然豊かな場所でも子どもたちは、日々目を輝かせ心も体もたくましく育っています。たくさんさんの経験を通して子どもたち同士が仲間と一緒に育ちあえるような保育をしています。

また、地域の要望に添えて一時保育事業や病後児保育事業も実施しています。保護者の方と子育ての喜びや悩みを共有しながら、保育者と保護者が手をとりあつて育ちあえる、地域に開かれた保育園を目指していきたいと思えます。

(園長 鶴谷 美奈)



障がい児者 サポートセンター てとて

てとて

〒989-6105 大崎市古川福沼2丁目18-27
TEL 0229-21-8606



「てとて」が開所して早いもので3年目を迎えました。開所当初はご利用される方も少なかつたですが、今では児童発達支援センターりんごのほっぺ、放課後等デイサービスでくたくには、たくさんの子どもたちが通所してくれています。りんごのほっ

ぺでは、公園に行つて遊んだり、絵の具を使った感覚遊びをするなど楽しい毎日を過ごしていただいております。通所当初は、なかなか給食を全部食べることができず泣いているお子さんもいらっしゃいましたが、今では全員が給食を完了することができるようになりました。

放課後等デイサービスでくたくでも新学期を迎え、たくさんの子どもたちが学校終了後に遊びに来てくれます。4月からは隔週(第2・第4)ではありますが土曜日開所をスタートさせています。土曜日は涌谷城址でのお花見会や万葉フリートパークなどで活動しています。また、同法人の介護事業所の見学を兼ねた交流会なども企画しながら活動の幅を広げています。就労部門においては、お弁当の製造・販売を中心にしながら、仙台卸売市場での受託業務やクワネコヤマトメール便、カメイ(株)様からの受託業務など様々な作業を取り入れることで利用される方たちに仕事を選んでもいただけるような環境を整えさせていただいております。今では仲間も増え、利用者様同士のコミュニケーションも活発に取られるようになりました。

ご利用される方たちはもちろん、地域の方たちの声にも耳を傾けながら活動していきます。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。

(施設長 小山 洋之)



福祉社会と私 ②

宮城厚生福祉会 理事長 福岡眞哉



「宮城野の里」建設運動は1998年春頃より本格的に始まりました。建設準備室を福田町踏切脇アパートから福田町駅前（現、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション）に場所を移動、宮城民医連推進委員会を立ち上げ専従2名体制で開始されました。同時に、この準備室は厚生協会福田町クリニックでもあり診療を行いながら、スタッフを含めての建設準備となりました。準備活動は地域訪問、つくる会運動、職員採用、設計プランニング、什器選定、日常診療など、目まぐるしい日々でした。

そもそも福田町田子地域は民医連事業所との関係が薄く、あまり繋がりがない地域でありましたが、坂総合病院友の会会員や患者さん、県連職員の関係者を頼りに訪問を重ね建設の意義やどんな施設を目指しているか等、地域毎の小集会を開き理解と協力を貰いました。又、県連統一訪問行動は4回行われ県連各事業所より約250名の職員に参加を頂きました。今、懐かしいのは三角屋根の田子二丁目集会所、ホールにぎっしり集まり、行動後は弁当を食べながらの報告会でした。この当時のつくる会会員は約2000名、募金額は4293万円（2000.4時点）寄せられていました。

土地購入を進め建設用地を確保しましたが、田んぼの農地転用や区画整理事務所との話し合い、さらに建設用地田んぼは灌水制御システム（農作物の品質向上を支援するもの）より管理がなされており国及び県から補助金を受けており、これらの解除を進めるのに時間を要し建設着工は遅れに遅れ、約6ヶ月の突貫工事で進められ2000年4月1日何とか開設することができました。内覧会には地域の方々を中心に約600名が来てくれました。

設計事務所選定はプロポーザル方式をとり、最初に6～7ヶ所の事務所が参加、第一次選考で数社に絞り最終確認を行い、“みちのく設計”に決めました。決定要因は、特養建設を念頭に第1次・第2次計画の“ストリート”を描き、地域の交流場所と将来計画を想定したデザインであった事でした。

今振り返ると直面する無理難題の課題を一つ一つ粘り強く解決しクリアできたと思います。それは、民医連と言う組織の存在と長期計画を実現させる思い、そして、県連初の高齢者施設の完成を望んでいたからではなかったか、と考えます。

以上、「福祉社会と私」寄稿に当たり、法人立上、つくる会、宮城野の里建設運動を振り返りながら、私の関わりを見てみました。

次回以降も法人とゆかりのある方からのお話を掲載していきます。

新入職員 オリエンテーション

2016年3月19日(土)新入職員オリエンテーションが行われました。

風の音サテライト史の施設開所もあり、2016年4月1日の採用者は24名でした。

丹野広子法人常務からは『法人の理念と成り立ち』、宮城民医連の加藤隆雄事務局次長からは『民医連について』、大内誠法人事務局次長からは『就業規則等』の講義を真剣に聞いておりました。

これから法人職員として皆様と関わることがあると思います、どうぞ宜しくお願い致します。



編集後記

東日本大震災を経験したことが一因か、50歳を過ぎて涙腺がかなりゆるい。一人しかない卒業式、そして廃校、廃駅とローカル線廃止のニュースに涙が止まらなくなってしまう。傍らにだれもいなかったら大号泣。ニュースと自分が同化していく。それだけやっぱ経験と年齢を積み重ねたという事か。失う事の寂しさ、理不尽な事への憤り、回復することの困難さ。震災で経験した事か。施設に入ると、3つの苦難と5つの落差が存在すると言われる。苦難は①施設に入ることになった原因による苦しみ、②みずからコントロールしてきた居住環境システムの喪失、③施設という非日常空間により味わう「落差」。さらに落差は「空間」、「時間」、「規則」、「言葉」の落差があり最大の落差は「役割の喪失」である。これが認知症をさらに深刻化させる。施設へ入る事を「収容」とか「入所」とか言う。アパートに入る事を入所とは言わない。施設は未だ特別なところなのか。

年老いて、自分が施設に入っても、地域で暮らしても、今までと同じように暮らしたい。何が一番良いのだろうか。そんな視点で地域包括ケアシステムを考えられたらと思う。

(海和隆樹)

福祉会のなかまの輪



本部事務局 佐々木 隆行さん



第1回目の「わわわのわ(仮)」ということで、広報委員である私から書かせていただくことになりました。法人社会保障委員会の委員長をしています。

さて、私が学生時代に好きだった「Hi-STANDARD」というバンドがいます。

ながく活動休止してましたが東日本大震災の翌2012年、「音楽で東北を元気づけたい!」とロックフェスを主催しました。運よくチケットが取れたので行くことが出来ました。写真はその時のものです。

そのHi-STANDARDが今年12月、4年ぶりに福岡でロックフェスを開催するそうです。オフィシャルな発言はありませんが、熊本地震の支援なんじゃないかなーと思ってます。

復興支援っていろいろな方法があると思います。自分に出来る形でやっていくことが沢山の人を元気にして、それってすごく大事なことだと思える出来事でした。



次回は福田町デイサービスセンター 黒澤有美さん



クイズ わわわ

【問題】

1回目はなぞなぞですよ。

- 「さ」をひっくり返すと「ち」になります。
- 「つ」をひっくり返してちょっと回すと「し」になります。
- 「 」をひっくり返すと「と」になります。
- 「 」に入るひらがなは何でしょうか。

ヒント：ひっくり返して「と」になるものは何でしょう？



【解答について】

解答は、住所(事業所)、氏名、ひとことを添えて、メール(t_sasaki@zmkk.org)かFAX(022-388-9969)で送付してください。抽選の上、5名様にクオカードを進呈いたします。

締切:8月31日必着 当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。解答は9月上旬に、法人HP(<http://www.kou-fuku.or.jp/>)に掲載いたします。